

タイトル：『修復——藝術の場所と技法の互惠——』

00 あいさつ／パネリスト紹介 [松本]

01 導入 1 [マチダ]

- オルタナティブ (alternative = 代用の／もう1つの選択) という意味について

cf: 修復 = 「芸術作品を物理的内容とそれを未来へと伝える歴史的、美的な時間経過のなかにどのように位置づけ理解するかの方法論」
(チャーザレ・ブランディ『修復の理論』1963)

- 藝術は作家側だけに存在しない件について

02 導入 2: 一つの仮設として —藝術の場所と技法の互惠— そのアウトアライン [松本]

A 祭り／視としての藝術

→ 藝術の社会的役割 (ツールとしての藝術)

○1 コミュニティを形成する手段としての藝術

cf: キリスト教 教会

cf: 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ (新潟県／十日町市、津南町) | 2000—: 北川フラム

cf: 灰塚アースワークプロジェクト (広島県／三良坂町、吉舎町、総領町) 1993— (日回り舞台 | 2000 / なかつくに公園 | 2007): 岡崎乾二郎

○2 視として、プロセス (歴史) を切断する手段としての藝術

cf: 1933 老場坊 (1933 Old Millfun) | 食肉解体場を改装した | 2006

cf: AtopicSite: On Camp/Off Base (柏木博、岡崎乾二郎、建島哲、四方幸子、高島直之)

→ 東京都 世界都市博覧会中止 (青島幸男知事) における補償事業 | 1996

B 場 (並列／等価 - 空間) としての藝術

→ コンテキストを諸事物の批評を可能にする空間 → 脱カテゴリー／脱領域／学際的という『場』を提供するのが、藝術の役割であった

cf: 過視性／超平面性 = 00年代における議論

cf: 遠近法 = 「多数の個物として描かれていたものをたがいに融け合わせて、現実的な統一へ」とたらしめる (E・パノフスキー『象徴形式としての遠近法』1927)

→ そもそも、バラバラな事象をどのように位置づけるか? という問題が存在し、その解決方法として、様々な「遠近法」が発明された

cf: MoMA (ニューヨーク近代美術館) の収集コンセプト

C 部外者性 - よそ者としての美術家／判断に関わるもの

→ 「藝術」という場が (予定調和的に) 予め指定されていると考えてしまえば、もはや「藝術」という呪文を唱えさえすれば、それが「藝術」となってしまう
(『藝術は藝術である』というトートロジー／無根拠)

cf: マルセル・デュシャンの《泉》における議論の経緯 (アンデパンダント展における諸問題)

よく「批評が無いとダメ」といわれる所以は、顕現した諸問題の解決方法、

つまり批評 (critique = krinō: 判断する／裁く) というプロセスの有無である

→ (『美術館』という問題 (公共性の問題) に引きつければ、公立美術館に関していえば、パブリック・コレクションに加える際には外部の委員を交えた会議が開かれる

cf: 東京都現代美術館のロイ・リキテンスタイン《ヘア・リボンの少女》購入問題 (1994)

DIC 川村記念美術館のバーネット・ニューマン《アンナの光》放出問題 (2013)

cf: ゲオルグ・ジンメル『よそ者についての補論』1908

→ ジンメルのいう「よそ者」とは、潜在的放浪者であり (全くの放浪者ではなく)、また全く社会に不関与な者を指すのではない。

この分析はヨーロッパで生活しているユダヤ人の商人を想定している (よそ者は「土地所有者」になることはない)

『よそ者についての補論』は以下のように述べる:

「よそ者」の特性に中立性や客観性がある (行動において慣習や恭順や先例に束縛されない)

→ 「同郷人では親族の利害や党派による拘束から自由になれないから」という理由で、裁判官を外部から召還したのだった」 (ジンメル、同)

また、ある共同体の内部に属する者にとって、外部の人間は「よそ者」であるからこそ親密になることができ、秘め事を話することができる、ということ

その親密な関係とは、内側と外側の線引きがあるからこそ機能するもので、ジンメルはそれを「近さと遠さの統合」と説明している

この「近さと遠さの統合」は、美術家という視点を構築する上で外すことのできない要素である

(参照 URL: <http://aslsp2.blogspot.jp/2014/05/6-aslsp.html>)

cf: 他の「よそ者」のモデルとして: 貴種流離譚 (日本建国神話) / グレート・ピースメーカー (アメリカ建国神話)

03 討議 「藝術の場所と技法の互惠」 [全パネリスト]

- 作品展開の場所に対して作家の現況
- 作品のテーマと社会性について (3.11以降)